

リハビリテーションセンター

◆体制

リハビリテーションセンターでは、理学療法士(P T)22名、作業療法士(O T)6名、言語聴覚士(S T)4名、マッサージ師1名の33名でリハビリテーションに従事している。P T部門は、中枢神経疾患を主に担当する“中枢チーム”、整形外科やリウマチ疾患を主に担当する“整形チーム”、呼吸器疾患や循環器疾患の内科・外科を主に担当する“内部チーム”の3つに分け、専門性を高めながら治療に当たっている。

< P T部門 >

中枢チームが担当した年間依頼件数は、神経内科 1455 件、脳神経外科：1002 件(OT・ST 処方含む)であった。活動として、以下の2点に重点を置いた。1. つめは、SCU 病棟との連携強化。そのためには、① SCU(脳卒中ケアユニット)に入室される脳卒中(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血)発症直後の患者様への介入。② 毎日のカンファレンスを通して Ns と日々情報共有をし、より良いチーム医療を提供。③ リスク管理を十分行い、出来るだけ早期(可能なら入院翌日)から介入した。SCU 入室直後からの超早期介入を行うことで、麻痺肢の機能改善、廃用予防、ADL 改善を目標とした。2. つめは、多職種との連携(神経内科・脳神経外科)とした。そのためには、① Ns との walking カンファレンスに参加(毎朝)。② 医師、看護師、薬剤師との SCU カンファレンスに参加(毎週水曜)。③ Ns、MSW との 13 西病棟退院調整カンファレンスに参加(毎週水曜)した。その他、医療用 HAL(Hybrid Assistive Limb)を開始した。HAL とは、装着者の生体電位信号を感知して、動作をアシストする制御システム。特定の神経難病 8 疾患を中心に導入開始している。

整形チームでは主に整形外科とリウマチ膠原病内科の患者を担当した。

整形外科における主な対象疾患は、関節外科術後、脊椎外科術後、骨折などの外傷が挙がる。また、これに加え関節鏡を専門で行なう医師が今回入職されたこともあり腱板断裂や膝関節半月板損傷、ACL 断裂などの腱や靭帯損傷に対する手術件数が大幅に増え、それに対する後療法の依頼も増えた。腱板断裂術後に関してはこれまでは OT のみの介入であったが、同時に PT も介入することになったため、より術後早期から肩関節機能改善に向けて運動療法を行なえるようになった。整形外科領域においては手術内容により禁忌肢位が設けられることがある。患者教育の一貫として、またセラピスト間での指導内容に差異が生じないようにする為、ADL 指導のパンフレットを作成した。また、術後疼痛コントロールが大きな課題となるので、物理療法の一手段として TENS を導入。同時に末梢神経障害による麻痺患者の EMS も可能になった。リウマチ教育入院として 3~5 日間で入院中の患者に対し、運動療法や物理療法、関節保護法、ADL 指導や自助具に関するリハビリ独自のパンフレットを作成。その後、北野リウマチチームとして医師や看護師、薬剤師、検査技師、地

域医療スタッフとともに教育入院とは別で、リウマチ患者に対する情報提供書としてのパンフレットを作成した。

内部障害チームでは、内科系では呼吸器内科、循環器内科、消化器内科を中心に、その他幅広い科から、廃用症候群の予防や改善を主な目的とした理学療法を実施した。外科系では、心臓血管外科、消化器外科、呼吸器外科を中心に術前介入、ICU からの術後の早期介入を実施した。高齢患者が多いため、自宅退院を目標とした ADL 改善には他職種との連携が不可欠であり、呼吸器、循環器、消化器疾患関連病棟では定期的なカンファレンスに積極的に参加した。心不全教室や腎臓病教室では、再発予防を目的とした多職種での患者教育に携わった。2016 年 9 月より心大血管疾患患者を対象とした外来リハビリを開設し、集団リハビリ算定も可能となった。血液内科を中心としたがんリハビリでは、がんリハ研修修了者が増加したことから、算定対象科も増加し患者数も増加した。2015 年に導入された体組成評価が可能な In Body を使用した消化器外科や心臓外科の術前・術後の骨格筋量を評価した症例数が蓄積し、同データによる学会発表も行った。

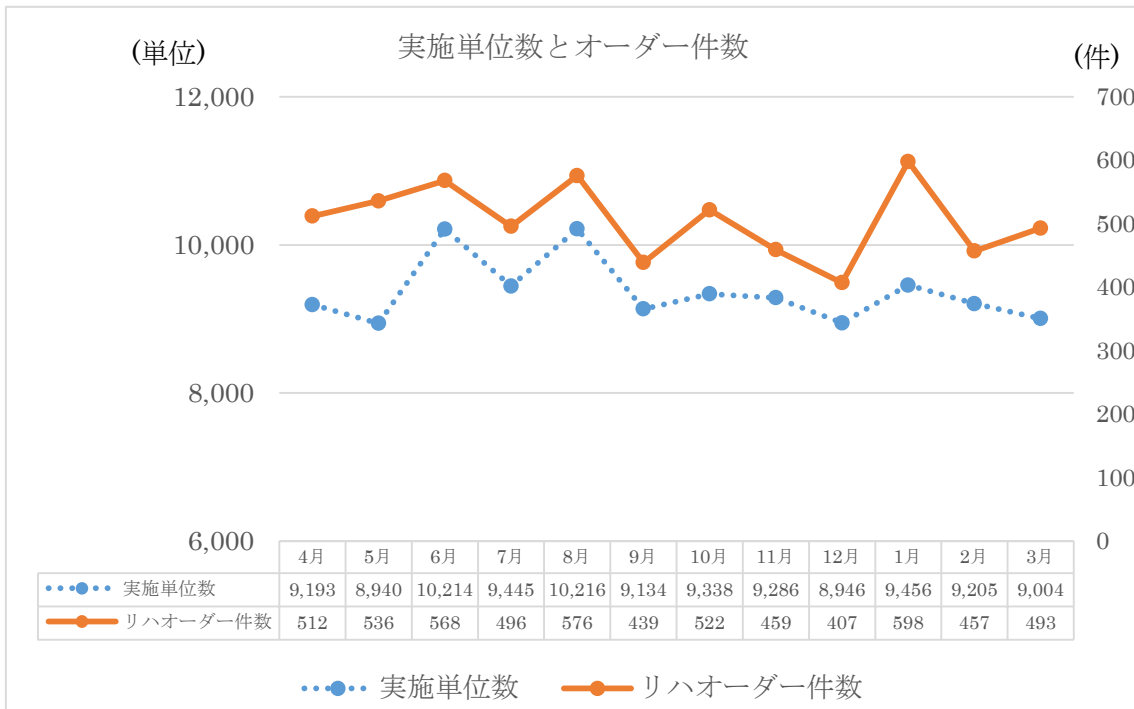
<OT 部門>

作業療法は人の行う様々な作業活動(日常の活動)を用いて、作業バランス(セルフケア、生産活動、余暇活動)の回復、失ったり・縮小したりした方々の回復を助ける事である。当院でも脳卒中や骨折、神経難病など様々な疾病に対し回復の援助を行なっている。当年度より、リウマチチーム、婦人科がんリハビリカンファレンス、整形外科カンファレンスへ加わり、他職種連携を強化している。またリウマチワークショップや報告会への参加により、他病院との情報共有の機会を得た。本年度は、6 名の実習生の受け入れ後進の育成にも取り組んでいる。今後の課題は、新たなチーム活動の発足に伴い他職種との連携を深め、視野を広げた介入が出来るようにする。

<ST 部門>

言語聴覚療法対象患者の診断名は、脳血管疾患、神経筋難病が大半を占めているが、近年循環器疾患や呼吸器疾患、小児分野や外科術後、がん患者等も徐々に増加している。(2016 年度処方件数：神経内科 328 件、脳外科 278 件、小児科 56 件)。言語聴覚士(ST)が対象とする主な障害は摂食嚥下障害、失語症、高次脳機能障害、構音障害、顔面神経麻痺などで、言語機能・嚥下機能に関する指導、助言等の訓練にあたっている。Stroke Care Unit ; SCU では、脳卒中発症直後の超急性期患者様への摂食嚥下訓練を開始、誤嚥性肺炎を予防し食事開始から食事の安定までを病棟とともにサポートしている。また小児分野、特に NICU(新生児集中治療室)においては新生児哺乳の評価・援助や、母児のコミュニケーション指導を開始。病棟と連携したアプローチを構築している。また、きたりハ公開講座では「机でできる認知症予防」を開催、地域への貢献も模索している。他のリハ部門同様に、他職種との連携を積み重ね質の高いサービスを提供できるよう努力している。

◆ 診療実績 …臨床統計(手術件数、検査件数、患者数(外来/入院)、他)・研究等



◆ 研究実績 …論文・学会発表のテーマ・発表者

【論文発表】

本田憲胤：【チームアプローチ～Team Approach～】呼吸サポートチーム：大阪府理学療法士会誌、44巻 P6-13(2016.03)

本田憲胤：ハイフローセラピーを行いながらの呼吸リハビリテーション：THERAPEUTIC RESERCH.37巻12号.p1120(2016.12)

【学会発表】

- 1 松岡 森、内田洋一朗、吉田 都、本田憲胤、寺嶋宏明 リハビリ栄養の理論と実践 肝胆膵領域癌患者の周術期における体組成分析装置による解析 第8回日本静脈経腸栄養学会近畿支部学術集会 2016/7/2 (兵庫)
- 2 上坂建太、吉田 都、安井久美子、友尻慈子、高橋 萌、阿賀千香子、山田信子、金田恵美、板原 夢、中根英策、猪子森明 多職種連携による心不全教室を通じた疾病管理充実化への取り組み 第6回西日本心不全チーム医療研究会 2016/4 (大阪)
- 3 本田憲胤、東本有司、福田寛二 Hermansky-Pudlak Syndrome に肺線維症合併症例に対する呼吸リハビリテーションの短期効果 第53回日本リハビリテーション医学会学術集会 2016/6/(京都)

- 4 上坂建太、吉田 都、高井文恵、森島 学、中根英策、植山浩二、猪子森明、山田純生
心臓外科術後の機械的換気補助による離床時呼吸困難感の軽減効果 第1回日本
心血管理学療法学会学術集会 ラウンドテーブルディスカッション 2017/6 (仙台)
- 5 吉田 都、上坂建太、佐藤慶彦、呑口竜一、松岡 森、本田憲胤、林 秀幸、中根英策、猪
子森明 疾病管理行動指標を用いて回復期心臓リハビリテーションを施行した一例
第22回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 2016/7/16-17 (東京)
- 6 上坂建太、作井大介、萩原悠太、神谷訓康、足立拓史、吉田 都、高井文恵、森島 学、中
根英策、植山浩二、猪子森明、山田純生 心臓血管外科術後患者の機械的換気補助
による呼吸困難感改善には術前の心不全が関連する 第22回日本心臓リハビリテ
ーション学会 2016/7/19 (東京)
- 7 浦慎太郎、本田憲胤 肺内パーカッションベンチレーターを使用した無気肺の改善効果
—難治性無気肺の1症例— 第21回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会
2016/10/11(横浜)
- 8 本田憲胤、北島尚昌、澤田優子、上坂建太、佐藤慶彦、松岡 森、吉田 都、鹿島愛香、福
井基成 慢性呼吸不全患者の認知機能と24時間経皮的酸素飽和度モニタリング値と
の関連 第21回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 2016/10/11 (横浜)
- 9 Suzuki M、Fukui M、Muro S、Mishima M/ Acupuncture improves nutritional status
and inflammation in patients with chronic obstructive pulmonary disease: a randomized,
placebo-controlled trial/ The World Federation of Acupuncture - Moxibustion
Societies(WFAS) 2016/11/5 (Tsukuba)
- 10 本田憲胤、澤田優子、成宮牧子、水本 洋 三次元加速度センサーを用いた感覚感受性
測定を検討—ストレス処置頻度との関連 第61回日本新生児保育医療学会学術集会
2016/12 (大阪)
- 11 大泉 湧 右肩腱板損傷に対し鏡視下腱板修復術を施行された1症例 ～胸郭出口症候
群様の症状に着目した理学療法経験～ 第8回大阪市北ブロック学会(新人症例発表
会) 2017/1/29(大阪)
- 12 鹿島愛香 呼吸リハビリテーションを通して運動耐容能や呼吸困難感、不安の改善が図れ
た症例 第8回大阪市北ブロック学会(新人症例発表会) 2017/1/29 (大阪)
- 13 辻本実奈美 低左心機能の冠動脈バイパス術後患者の術後運動耐容能低下に対する要
因の考察 第8回大阪市北ブロック学会(新人症例発表会) 2017/1/29 (大阪)
- 14 甲斐太陽 左橋梗塞にて歩行障害をきたした症例～四肢近位部・体幹の筋緊張低下に着
目して～ 第8回大阪市北ブロック学会(新人症例発表会) 2017/1/29 (大阪)
- 15 則政里沙 間質性肺炎の増悪により身体機能の低下を来たした症例 ～身体機能の向上
を目指して～ 第8回大阪市北ブロック学会(新人症例発表会) 2017/1/29 (大阪)
- 16 小出沙紀 両側性原発性膝関節症により右人工膝関節置換術を施行した症例～立脚後
期の問題に着目して～ 第8回大阪市北ブロック学会(新人症例発表会)
2017/1/29 (大阪)
- 17 富謙伸 大腿骨頭壊死に対して全人工股関節置換術を施行された症例 第8回大阪市
北ブロック学会(新人症例発表会) 2017/1/29 (大阪)
- 18 辻本実奈美、上坂健太、吉田 都、浦慎太郎、鹿島愛香、佐藤慶彦、呑口竜一、松岡 森、
本田憲胤、中根英策、高井文恵、森島 学、猪子森明 周術期の不安により運動量の
増大に難渋した、冠動脈バイパス術後患者へのインターバルトレーニングの適用
第2回日本心臓リハビリテーション学会近畿地方会 2017/2/25 (大阪)

- 19 本田憲胤 包括的呼吸リハビリテーションの普及:南近畿リハビリテーションネットワーク主催、2016/5/14 (大阪)
- 20 本田憲胤 コンディショニングを考える 第27回地域包括呼吸ケアを考える会
2016/5/21(大阪)
- 21 鈴木雅雄 慢性閉塞性肺疾患の鍼治療について 第65回全日本鍼灸学会学術大会
2016/6/11 (北海道)
- 22 本田憲胤 在宅まで使える、臨床に役立つ呼吸リハビリテーション技術と機器 第53回
日本リハビリテーション医学会学術集会 2016/6/11 (京都)
- 23 上坂建太 弁膜症術後リハビリテーションの進め方 第3回西日本 Cardiovascular
Physiotherapy Network (CPN) 講習会 2016/6/26 (大阪)
- 24 鈴木雅雄 安定期 COPD 患者の栄養状態に対する鍼治療の影響/公益財団法人田附興
風会医学研究所 第91回学術講演会 第15回研究発表会 2016/7/16 (大阪)
- 25 鈴木雅雄 災害において鍼灸に出来ることは何か? 第4回日本統合医療学会サマー
セミナー 2016/7/17 (福島)
- 26 本田憲胤 ADL、QOL 改善のための呼吸リハビリテーション 第8回呼吸ケア研修会、大
阪呼吸ケア研修会主催 2016/7/2 (大阪)
- 27 本田憲胤 急性期の呼吸リハビリテーション 第61回日本集中治療学会近畿地方会
2016/7/9 (大阪)
- 28 上坂建太 心大血管外科術後のせん妄に対する理学療法の実際と可能性 第22回日
本心臓リハビリテーション学会 パネルディスカッション 2016/7/19 (東京)
- 29 本田憲胤 呼吸理学療法の実際 呼吸リハビリテーション症例検討会主催
2016/7/23-24(大阪)
- 30 鈴木雅雄 運動における呼吸の役割と鍼灸の影響について 第50 東北鍼灸学術大会
2016/9/18 (福島)
- 31 本田憲胤 急性期から必要な呼吸リハビリテーション 第20回泉州呼吸ケア勉強会
2016/11/10 (大阪)
- 32 上坂建太 多職種連携による心不全教室を通じた疾病管理充実化への取り組み 大阪
病院給食研究会 2016/11/11 (大阪)
- 33 本田憲胤 呼吸苦緩和のリハビリ 第28回地域包括呼吸ケアを考える会
2016/11/26 (大阪)
- 34 鈴木雅雄 成人喘息と鍼治療 第55回日本臨床鍼灸懇話会 2016/11/27 (大阪)
- 35 本田憲胤 医療と連携について おかだケアプランセンター主催 2016/12/3 (大阪)
- 36 本田憲胤 理学療法士のアセスメント-何を感じて治療に生かすか- 第6回実践呼吸
療法セミナー 一般社団法人大阪府臨床工学技師会主催 2016/12/18 (大阪)
- 37 浅野奈穂子、平野有香莉、野田佐奈恵、島本真弓、川合絃美、本田憲胤、水本 洋 言
語聴覚士と看護師による”新生児支援について”哺乳支援と母児支援 第19回新生児
呼吸モニタリングフォーラム 2017/2/18 (長野)